

JASRACコンサート

少年少女のための音楽鑑賞会

# 音楽職人が創るステージ [郡山・名取・相馬公演]

少年少女に生演奏のすばらしさを体験してもらうとともに著作権制度について知ってもらうコンサート。東日本大震災以降は、毎年被災地で開催しており、今年は次の3公演に合計2,000人余りの招待者が来場した。

郡山公演：9月26日（金） 福島県・郡山市民文化センター 中ホール

名取公演：同 27日（土） 宮城県・名取市文化会館 大ホール

相馬公演：同 28日（日） 福島県・相馬市民会館 大ホール



開催にあたっては、各県・市、および各県・市の教育委員会の後援をいただきました。

「お腹から息を出して」「口を締めすぎないで」。

出演者による演奏指導はこの催し物の特徴の一つ。コンサートに先立つ6月28、29日に相馬市、名取市を訪れた（会報8月号で既報）のに続き、コンサート当日も本番前の出演者たちが、ホールの控室や舞台袖などで、名取市立第一中学校（名取公演）、相馬市立向陽中学校（相馬公演）の吹奏楽部の生徒たちを指導した。

出演者は、著名なアーティストのレコーディングや数々のアニメ主題歌、映画・ドラマの挿入曲などの実績があるRMAJ（Recording Musicians Association of Japan）所属のスタジオミュージシャンの皆さん。表に出ることは少ないが、一般の人にもテレビや映画でなじみのある音楽を奏でている一流の奏者ばかりで、生徒たちは貴重な機会を活かそうと、真剣な表情でアドバイスに耳を傾けていた。



コンサートは例年どおりモーツァルトの『フィガロの結婚「序曲」』で幕を開けた。

幼児・児童からその父母・祖父母まで、幅広い年齢層の聴衆が、「ドラえもん」「崖の上のポニョ」、今年新たにプログラムに加わった「アナと雪の女王」の主題歌など、慣れ親しんだ曲に手拍子をしたり、口ずさんだり。そのほかにも、ヴァイオリンやサクスの音色が響き渡るソロ演奏や、生演奏の伴奏がついた絵本の朗読などで、音楽の



いろいろな姿を楽しんだ。

コンサートの合間には、「自分で買ったCDを、自分のホームページでダウンロードできるよ



にしてもいいでしょうか？」など、著作権に関する〇×クイズを行った（正解は×）。今年は、チェロの結城貴弘さんがさまざまな声色や身振りを交えて解説し、「クイズが一番楽しかった」との声も寄せられるほど盛り上がった。

コンサート後のアンケートでは、「わたしも楽器をひくひとになりたいなと思いました」（小学生）、「子どもたちも興奮していました」（40代）、「相馬地区は、このような機会があまりないので感謝します」（40代）などの感想が寄せられた。

また、公演の様子が相馬市のホームページで紹介されるなど、それぞれの開催地の方々に温かく迎えていただいた公演となった。



## 【出演】

石橋尚子（ヴァイオリン）、矢野小百合（ヴァイオリン）、島岡智子（ヴィオラ）、結城貴弘（チェロ）、一本茂樹（コントラバス）、高桑英世（フルート）、石橋雅一（オーボエ）、高野哲夫（ホルン）、前田正志（ファゴット）、佐野博美（クラリネット・サクソ）、宮本 一（ピアノ）、益田和嘉子（パーカッション）、石橋ちさと（ヴォーカル）、佐野啓子（司会・朗読）

## 【企画協力】

特定非営利活動法人 RMAJ  
（Recording Musicians Association of Japan）